

## 塚田佳男リードオルガンコンサート



Photo by Koshu ENDO

塚田佳男

# リードオルガンとうたう 日本の歌の午後

塚田佳男は、日本歌曲の研究・解釈・伴奏の第一人者として活動するとともに、全国各地で日本歌曲の歌唱法・伴奏法のセミナーを開催し、数多くの音楽家やピアニストを育成してきました。今回は、彦根まちなかにある『本町宿』大広間で、懐かしい歌曲・童謡・唱歌などの曲目をリードオルガンの演奏と湖国の音楽家による美しい歌唱でお届けします。

### ◆プログラム◆

- リードオルガンによるソロ  
「椰子の実」による変奏曲 大中寅二 曲  
竹田の子守唄 日本民謡  
五木の子守唄 日本民謡  
荒城の月 瀧廉太郎 曲 ほか
- リードオルガンでうたう歌曲・童謡・唱歌  
十五夜お月さん 野口雨情 詩／本居長世 曲  
七つの子 野口雨情 詩／本居長世 曲  
叱られて 清水かつら 詩／弘田龍太郎 曲  
冬の日 文部省唱歌  
からたちの花 北原白秋 詩／山田耕筰 曲  
この道 北原白秋 詩／山田耕筰 曲  
ペチカ 北原白秋 詩／山田耕筰 曲 ほか

### ◆出演◆

リードオルガン 塚田佳男  
ソプラノ 白谷仁子  
ソプラノ 神澤智香  
バリトン・カウントーテノール 原田泰彦

2019年 12月14日(土)

開演 午後3時 開場 午後2時30分  
チケット 3000円 高校生以下 1500円  
会場 本町宿 滋賀県彦根市本町三丁目3-55

\*お車で来場される方は、京橋口駐車所をご利用下さい(徒歩3分)。

主催：音楽企画湖音ko-on ☎090-4300-9616 Mail: siratani.m@gmail.com

共催：NPO法人ひこね文化デザインフォーラム ☎0749-23-3383 Mail: mail@hcdf.jp

後援：相愛大学 協力：湖東地域定住支援ネットワーク

# “リードオルガンとうたう日本の歌の午後”によせて

令和元年の深まりゆく秋。城下町彦根のまちなかで伝統的な町家の佇まいを残した『本町宿』を会場に、リードオルガンのソロとソプラノ、カウンターテノールで日本の歌曲、童謡、唱歌など懐かしい曲の数々を演奏いたします。

明治時代に製造されたヤマハのリードオルガンは、私のオルガンコレクションとして大切にしている楽器ですが、滋賀県でオルガンコンサートを開催するのは、平成21年春の『塚田佳男リードオルガンコンサート～甦れ、百年の息吹』、平成22年の秋の『塚田佳男リードオルガンコンサート～風・息・飛翔～』（蔵元 藤居本家）そして今回が三回目となります。

秋から冬へ、季節の移ろいを感じる午後のひととき、リードオルガンとうたう日本の歌の数々をお楽しみ下さい。

令和元年9月

塚田佳男

## ◆出演者プロフィール◆

### ●塚田佳男(リードオルガン)

群馬県出身。13歳より教会にてリードオルガンによる奏楽奉仕を務め、東京藝術大学音楽学部声楽科卒業後、ドイツにてピアノ及び伴奏法を学ぶと共に、パイプオルガンと教会音楽をエベルハルト・ポップ氏に師事。帰国後から現在に至るまで歌を知りぬいた繊細な音楽性で、特に日本歌曲の研究・解釈・伴奏においては現在日本の第一人者としての活動を続け、日本歌曲や日本の歌による演奏会での企画構成と演奏は、国内はもとより海外においても高い評価を得ている。

### ●白谷仁子(ソプラノ)

相愛大学音楽学部声楽科卒業。声楽を岡田敏子、田中万美子、荘田作、村田利秀の各氏に、日本歌曲の解釈を塚田佳男氏に師事。リサイタル、学校公演等多数出演。エウフォニカ管弦楽団・関西フィルハーモニー等、オーケストラと多数共演。リサイタル活動を続ける傍ら、「ユウスゲ」「ラ・ルミエール」「まいばら市民コーラス」の合唱指導に力を注ぎ、音楽を通して地域交流の輪を拡げている。音楽企画湖音ko-on主宰、白谷音楽教室主宰、滋賀県立虎姫高等学校非常勤講師。滋賀県米原市在住。

### ●神澤智香(ソプラノ)

京都女子大学音楽教育学専攻声楽コース卒業。滋賀県を中心に福祉活動やコンサートで演奏活動をする傍ら、後進の指導にもあたっている。また、渡邊史氏のもとで現在も勉強を続けている。原田泰彦氏とは混声デュオ等でコンサートに出演。米原市で音楽教室を主宰。滋賀県米原市在住。

### ●原田泰彦(バリトン・カウンターテノール)

大阪教育大学芸術専攻芸術学コース、同大学院芸術文化専攻修了後、ミシガン州立大、インディアナ大学音楽学部等で研鑽を積む。2005年アメリカ、コスタリカでの演奏旅行に3か月間従事。東京、大阪、滋賀を中心にコンサートに出演。ミシガン州一滋賀県友好50周年記念式典にてシュナイダー、三日月両知事臨席のもと「琵琶湖就航の歌」を披露。現在、渡邊史氏のもとで勉強を続けている。バリトンとカウンターテノールという二つの声部を使い分けるという類い稀な声楽家でもあり、そのあたたかい歌声には定評がある。滋賀県彦根市在住。

## 塚田佳男とリードオルガンの出会い

リードオルガン(足踏みオルガン)は、ピアノより持ち運びが楽で安価なことから宣教の現場では欠かせないものだったが、同じ理由で、日本の学校教育に必須のものとなった。

日本では長らくオルガンといえばリードオルガンのことで、日本歌曲伴奏の第一人者である塚田佳男と音楽の出会いもまた、小学校の教室であった。塚田には、小学三年生の時、初めて出席した教会の日曜学校で《むくいをのぞまで》を聞いて、感激あまり泣き出してしまったという思い出がある。

残念ながらリードオルガンは、今では教育現場からほとんど姿を消し、教会でもパイプオルガンや電子オルガンにその地位を奪われてしまった。しかしリードオルガンには他の楽器には替え難い魅力がある。

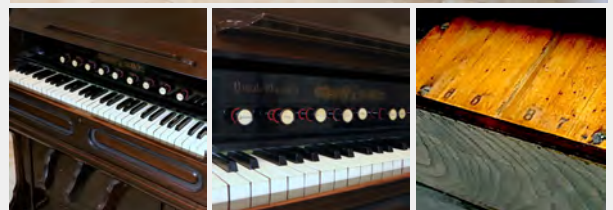


この演奏会の狙いには、ピアノ伴奏一辺倒の中であって、あらためてリードオルガンの歌曲伴奏楽器としての可能性を問いたい、という塚田の強い思いがあった。塚田のこの思いなくしてこの企画は生まれえなかった。

(執筆:麻田恭一)

\* 出典:『リードオルガン伴奏による 明治讃美歌・珠玉集』(恵雅堂出版 TRK-117)のブックレットより抜粋

## 演奏で使用するリードオルガン



明治36(1904)年 Yamaha Co. Hamamatsu 製造番号:65187